

令和 7年 7月 17日

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

学校名	管理機関名	設置者の別
印西市立原山小学校（外1校）	印西市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
印西市立原山小学校	<a href="https://harayama-e.inzai.ed.jp/spedu">https://harayama-e.inzai.ed.jp/spedu</a>
印西市立内野小学校	<a href="https://uchino-e.inzai.ed.jp/katei">https://uchino-e.inzai.ed.jp/katei</a>

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
印西市立原山小学校	<a href="https://harayama-e.inzai.ed.jp/spedu">https://harayama-e.inzai.ed.jp/spedu</a>	<a href="https://harayama-e.inzai.ed.jp/spedu">https://harayama-e.inzai.ed.jp/spedu</a>
印西市立内野小学校	<a href="https://uchino-e.inzai.ed.jp/file/16410">https://uchino-e.inzai.ed.jp/file/16410</a>	<a href="https://uchino-e.inzai.ed.jp/file/16410">https://uchino-e.inzai.ed.jp/file/16410</a>

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

## <特記事項>

なし

### 3. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、小学校1・2年生において「英語科」を実施し、学級担任や外国人指導助手(ALT)等との外国語活動を通じて、異なる言語や文化への関心を高めるとともに、異文化を尊重する心や、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するものである。

本特例を実施している印西市立原山小学校においては、英語を用いたコミュニケーション活動を繰り返す中で、英語の発音に対する抵抗感が薄れ、英語を通じて他者と関わろうとする態度が育まれている。また、印西市立内野小学校においては、低学年の段階から英語に親しむ機会を設けることで、英語に対する抵抗感が軽減され、英語によるコミュニケーションに自然と慣れ親しむことができている。

#### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

「生活科」の時数の一部を充てて実施している「英語科」では、英語を用いて自らの思いや願いをもって他者に関わる態度や、相手や場面を意識して関わる態度を育成しており、「生活科」における学習指導要領に示された目標の達成にも資する取組がなされている。

本特例を実施している印西市立原山小学校では、ALTや英語教育コーディネーターによる楽しい雰囲気づくりの中で授業支援が行われ、児童が積極的に英語でコミュニケーションを図る姿が見られた。印西市立内野小学校においても、低学年段階からのびのびと英語学習に取り組む姿が見られ、多くの児童が自信をもって意欲的に学習している。こうした取組により、児童が英語に親しむ機会が増え、中学年以降の英語科の学習への円滑な接続が図られている。

また、各校で実施した児童アンケートにおける「あなたは、ALTや英語教育コーディネーターと一緒に学ぶことは楽しいですか」という問いに対し、8割以上の児童が肯定的に回答した。加えて、保護者を対象とした「お子様は、楽しく英語科の授業を受けていると思いますか」という質問においても、約8割の保護者が肯定的に回答しており、保護者の理解も進んでいることがうかがえる。

さらに、教員へのアンケートにおいては、「あなたは、英語科の授業を工夫し、児童のコミュニケーション能力の向上を目指して取り組んでいますか」という質問に対し、7割以上の教員が肯定的に回答した一方で、2割以上の教員が英語科の指導方法に対して否定的な回答をしている。こうした課題を踏まえ、指導に悩む教員を支援するための研修や、印西市外国語教育検討委員会における対策を講じることにより、教員の指導力向上を図っていく必要がある。

#### 4. 課題の改善のための取組の方向性

3（2）で示した課題を踏まえ、今後は学校訪問や外国語教育に関する研修会等の機会を積極的に活用しながら、教員一人ひとりの課題やニーズに寄り添った支援を行うことが求められる。その際には、本市教育委員会が作成した「小学校低学年英語科指導計画（レessonプラン）」を活用し、英語科の指導方法や授業づくりのポイントについて具体的かつ実践的な助言を行うことにより、教員の指導力と授業の質の向上を図っていく。